

Rb まるい校舎

加古川市立川西小学校

校長室だより 第21号

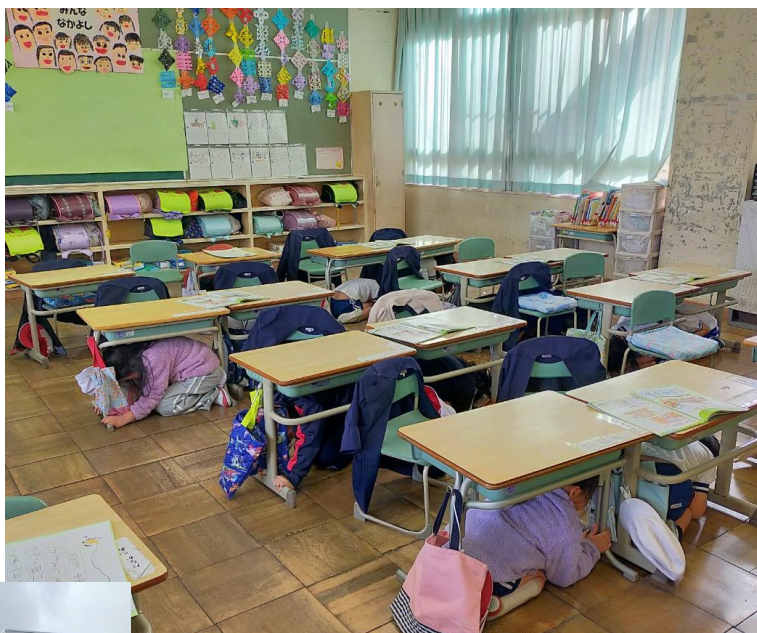
令和7年1月17日



「阪神・淡路大震災」から30年・・・

令和7年1月17日、今日は、「阪神・淡路大震災」から30年の節目の日です。川西小学校でも、地震に備えた避難訓練を実施し、全校生が集合して30年前の大災害で犠牲となった方々に黙とうを捧げました。

「阪神・淡路大震災」は、その後の「防災教育」に多大な影響を与えた災害です。「阪神・淡路大震災」以降の自然災害では、その教訓が生かされてきました。発生から30年が過ぎると、災害の記憶が風化していくと言われますが、災害への「備え」や「協力」の大切さは、風化させることなく引き継いでいくべきだと考えています。



子どもたちは、今日の避難訓練に向けて、各クラスで、地震が起きたときの行動や助け合うことの大切さを学習しています。

しかし、防災教育は、いつ起きるかわからない事について学ぶため、ついつい学んだことを忘れがちになります。一回の学習で終わらず、繰り返し考える機会をつくることが大切です。

17日の朝、神戸市中央区の東遊園地では、犠牲になった6434人を追悼する「1・17のつどい」が開かれ、灯籠（とうろう）を並べて「よりそう」という文字が作られました。震災で気づかされたのは人に寄り添う大切さで、他の震災も含めて被災地を忘れず寄り添い続けようとの思いが込められているそうです。

